

国際歴史学委員会

International Committee of Historical
Sciences (英文略称ICHS/ 仏文略称CISH)

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

日本学術会議

2024年11月

史学委員会国際歴史学会議等分科会

国際歴史学委員会
International Committee of
Historical Sciences
(英文略称ICHS/ 仏文略称CISH)

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

沿革と目的

1926年, 国際歴史学会議のための常設委員会としてジュネーヴで創設



5年に1回, ホスト国の国内委員会とともに国際歴史学会議を開催

参加団体(メンバーシップ)

- ・各国を代表する歴史学の団体54か国
- ・国際的な歴史学組織28団体

国際歴史学委員会

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

国際歴史学会議

- ・1900年, パリで第一回大会
- ・二つの大戦で中断
- ・今日まで大会23回を開催
(原則として5年1回の開催)

- 2000年 オスロ
- 2005年 シドニー
- 2010年 アムステルダム
- 2015年 済南
- 2022年 ポズナン

☆本来2020年にポズナンで開催予定であったが, コロナ禍のため2022年となった

国際歴史学委員会

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

■ 運営

- General Assembly 総会 (5年に2回開催)
- Board 理事会 (通常毎年1回程度開催)
- President 会長 (Catherine Horel キャサリン・オレル氏)
- 財源: 会員団体拠出分担金
- 最近の動向

グローバルな視野に立った歴史学者の連帯に努めている。財源の限られた国々も大会に加わることができるような財政的な工夫を行い、特にアフリカ諸国への加盟勧誘に取り組んでいる

国際歴史学委員会

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

■日本が加盟する意義

- 日本学術会議 史学委員会の国際歴史学会議等分科会がCISH日本国内委員会として活動 (委員長: 吉澤誠一郎)
- 国内の歴史学の成果を国際発信できる。
- 国際的な研究動向や交流において、提案などの形で積極的に関与できる。

国際歴史学委員会

Comité International
des Sciences Historiques



International Committee
of Historical Sciences

■ 日本との関係

○渡邊啓貴氏(帝京大学教授)が、国際関係史委員会の推薦により、2021年5月の総会にて理事に選出

○2024年10月に総会を東京で開催。あわせて国際研究集会 Crossings and Connections: East Asia and the World, c1800-1945 を日本国内委員会および日本歴史学協会が主催。

○2024年10月、国際歴史学委員会賞の授賞式が東京のブラジル大使館で開催 (受賞者: Laura de Mello e Souza教授)。